

U35みらい創造会議 長野県原村

2021年6月7日(月) 19:30～



<概要>

村の人口も年々少なくなる中で、
小さな村で暮らすもしくは働く若者たち(U35)が10年後、どのような村であってほしいかを考える会議。

『10年後、どんな故郷であってほしいか』をメインテーマに、
さらに美しい村になるには、なり続けるには何が必要なのかを考える。

<テーマ>

『10年後、どんな村であってほしいか』

<参加対象>

町村内の在住者もしくは在勤者である35歳以下の方

＜会議の流れ＞

- ①自己紹介/活動紹介
- ②この村の課題の共有
- ③この村の活かすべき財産・資源は何か
- ④10年後、どのような村であってほしいか
- ⑤そのためには、何が必要か
- ⑥まず、明日からあなたができる行動とは

みらい創造会議@長野県原村 参加メンバー

■坂口 陽史さん(さかぐち あきみ)25歳

出身：千葉県四街道(よつかいどう)市

職業：八ヶ岳自然文化園の職員(元 地域おこし協力隊)

情報：大学卒業後、新卒で地域おこし協力隊に着任。3年間の活動を終え、今年4月からは自然文化園の職員として働く。

■田口 壱星さん(たぐち いっせい)17歳

出身：東京都武蔵小金井市

職業：高校2年生

情報：生徒会の役員も務め、文化祭のコロナ対策や動画・ライブ配信についてzoom会議もこなす。趣味はベースギター。

■平出真由香さん(ひらいで まゆか)25歳

出身：原村

職業：原村役場

■川俣 大翼さん(かわまた だいすけ)24歳

出身：原村

職業：原村役場

■清水 美樹さん(しみず みき)25歳

出身：原村

職業：農家

■折井 祐介さん(おりい ゆうすけ)37歳

出身：原村

職業：トウモロコシ農家(HAMARA FARM代表)

情報：地元の若手農家さん。新しい農業やプロモーションを実践している方。

みらい創造会議@長野県原村 のディスカッション風景



タカタ ユナさんはグラフィックレコーダーの方

みらい創造会議@長野県原村ディスカッション結果

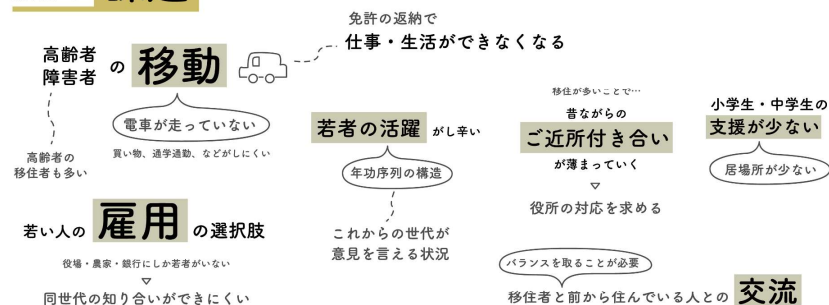
「日本で最も美しい村」連合
U35 みらい創造会議
2021.6.7



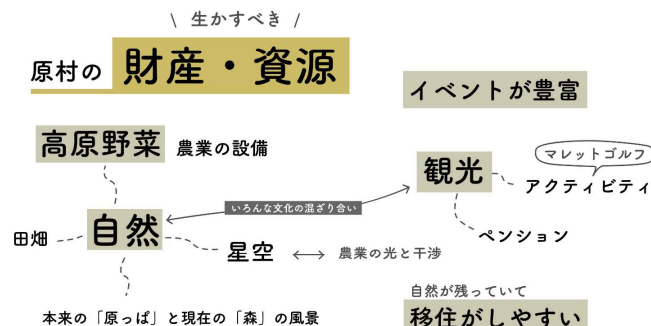
「10年後、どんな村であって欲しい？」

— in 長野県原村 —

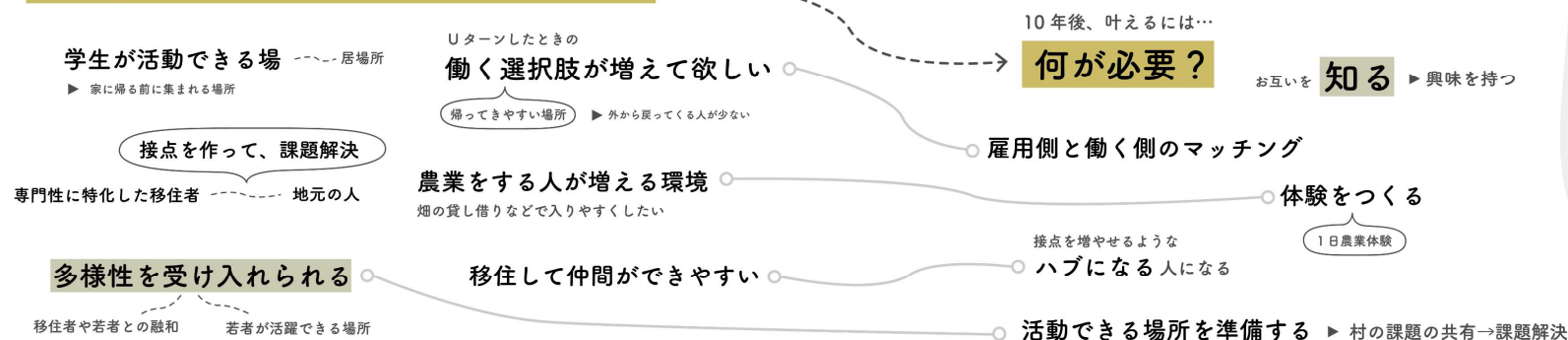
原村の課題



原村の財産・資源



10年後、どんな村であって欲しい？



Member

坂口さん

新卒で地域おこし協力隊
観光にまつわるイベント運営・企画



田口さん
高校2年生



平出さん
Uターンで原村役場



川俣さん
Uターンで観光関係の仕事



清水さん
セロリ農家で自営業



折井さん
Uターンで農業



Recording by YUNA TAKATA

■原村の課題

平出さん：移動が課題。高齢者の移動、移住してくるのは高齢の方が多く、ずっと住み続けるとなるとどうするのか。

川俣さん：移住者であまり近所づきあいとかしたくない人はなかなか移動の不便などを解消できない。でも、公共交通への不満の声もある、どう対処するか。

清水さん：高齢者の移動手段がない、80代以上の人が多い。免許返納が主流なのでどうするのか。

坂口さん：若い人の雇用する企業や施設などの選択肢が増えてほしい、役場・農家・銀行くらいしかない、同性代のつながりが土日休みじゃないのであまりない。

田口さん：中学高校生への支援がないけど、原村に帰ってきましようといわれる、中高生の居場所がない。Uターンで戻ってきてほしいのに相反している。

折井さん：若い人が活躍するようにしてほしい、村は縦社会、村を支える若い人が意見を言って村をつくっていかないといけない。移住者が多い、人口増なのはいいけれど、移住者ともともと住んでいる人との融和が必要。ニーズが違ってきてしまう。

【この村のいかすべき財産は？】

清水さん：原村といえば高原野菜。畑や使われていない農具が活かせる財産なのではないか。
セロリ農家さん（清水さん世代は10名いないくらいしかいない40代以上が多い。）

坂口さん：星空、林や森は原村の本来の姿ではない。植林されて作られている。本来原っぱだった。でもその姿にひかれて移住してくる人も多い。生かすべき資源とのバランス。小さいころから原村に遊びに来ていた。別荘区に家を持っている人がいて毎年遊びに行っていた。湧き水とか高原野菜とか。標高低いところに自然や農場。田畑・蔵、高いところにログハウスやペンションあっていろんな面がある。

田口さん：イベントがいい。クラフト市や星空の映画祭など高校生でも行きたいと思える

★イベントについて：ハケ岳エリアにはクラフト作家さんがおおい

作家さんがクラフト市の実行委員会を運営している

ペンションオーナーの方が星空の映画祭を提案したのがはじまり。小さいころに映画祭を見に行っていた人たちが復活させた。

折井さん：農業が盛んな地域とペンション地区のような観光エリアが隣接している村は特徴的。農産物自体が観光資源になる。宿泊や自然アクティビティができるエリアとしての魅力。スキー場やゴルフ場やアウトレットをつくろうという動きもあったが、実現してこなかったことが、自然を残すことにつながった。移住しやすい土地として人口がふえているのではないか？マレットゴルフはおすすめ。原村のお年寄りによくやっていて若い人も楽しめそうではないか。若者がたのしめる仕組みもあればいい。

平出さん：星。星は本当にきれい。夜散歩しててめっちゃ星があると実感するところがある。冬は空気も澄んでて仕事おわって車おりの瞬間に心が癒される経験がある。誇れる。星を見に来たいと思える。近くの市よりも標高が高いので星がよく見える。星を見に原村いきたいという。360度山が見える。

清水さんと同級生。セロリ農家をおじいさんの代からやっていた。お母さんお兄さんとセロリ農業をやっている。

川俣さん：趣味でカメラをやるので、星もとっている。主要産業である農業が夏場になると光りだす。農業は大事だが、星空を少なくしてしまう。どっちも大事なのでどちらもいきるようによければ。子供のころと今では星の見え方が違っている。小さいころ夜に雲を見たことがない。街灯がふえてしまっている。星が見えなくなっている。

【10年後どのような村であってほしいか？】

田口さん：学生が村のことについて考えられる、意見できる活動できる場所があるといい。若い人も村の財産。ぜひ使ってほしい。若い人が自信をもっていれる10年後がいい。居場所が家と学校だけ。ワンクッションおけるスペース的なものが欲しい。星空のイルミネーションにはかかわっている。ほかにも地域に恩返しをしたいという人もいる。

平出さん：大学にいった、就活をしていたが、原村に戻ってきた。帰ってきたら役場という感じになっていた。原村は好きで生活するのは理想だが、そこで何をするかとなったときに探すのが難しい。農業を継ぐとか。役場とか選択肢がない。働ける場所。帰ってきやすい場所。そう思える場所が欲しい。原村で高校でて働いている人はずっと原村にいて近くの市町村で仕事をしているが、一度村を出た人がUターンしたいと思える決め手がない。

川俣さん：こだわりの強い移住者が多い。地元の人とのコミュニケーション、つながりをつくれれば。そうすればお互いがうまいことなじんて課題が解決できるのでは。接点がないのが今の課題。外から飛び込んできた外交的な人に協力してもらってコミュニケーションが10年後にはできれば。

清水さん：若い人で農業やりたい人がいるので、農業をやる人が増える環境ができれば、次の世代につないできたい。使っていない畑を貸出したりしたら環境ができるのではないかな？みんなの協力が必要。土地を持っている人が許可をして村が協力すれば。

折井さん：農業の問題は土地に絡んでくるので、知らない人に貸すことに抵抗がある。遊休農地が増えている現状。JAとかはそうした土地を集約して新しい農業に貸し出すしくみは持っている。新しく農業を始める人にとってはハードルが高い。かんたんではない。

折井さん：今後、地方で生きていく道を選ぶ若い人も増える、働き方も変わる。農業も一つの生き方となるだろう。偏った考えでなくいろんな働き方を受け入れられる村にならなければ。若い人が新しい移住者と融和していく。受け入れる気持ちが必要。若い人が活躍できる場所が今は少なすぎる。村の人たちが若い人をないがしろにする風潮がある。長くこの村にいるほうが偉いという考えが定着している。若い人が集まって活動できる場所。参画できる村。移住者との融和が図れる柔軟性のある村。

坂口さん：若い人が増えてきてほしい。10年後新卒とかの人が原村に戻ってきたときにすぐに仲間ができる環境が整っていたらいい。自分は苦戦した。

【なっしてほしい10年後のために、なにが必要か？明日からできる行動は？】

川俣さん：自分が知っていることでしか考えることや話ができないが、まずは知ること（移住者のことなど）。興味を持つこと。人としゃべること。積極的に知ること。自分から積極的に動くのはなかなかできないこと。移住者と地元住民は互いに関係がないからいざこざになっていて農業なども問題が起きる。いかにお互いに知ることを促せるか？

清水さん：県外の人も増えてきているので、帰ってきて農業やりたい人に一日農業体験ができる環境を作っていければ、体験がおわったら写真をとって掲示していければ
中学校で農業体験が2日間でやっている。中学生だけでなく高校生や県外の人もできれば。

坂口さん：同世代でない、ひとまわりふたまわり上の人のつながりはすぐにできたが、だれでも紹介できる人でいたい。だれか一人をきっかけに弾む話もおおかった。村内などいろんなところに接点を増やして誰でも紹介できるくらいになれば。
消防団は地域おこしの2年目に入ったが、観光の事業をしていると大会なども日程が合わずにでれず、飲み会などにも参加できず。まだ地元との交流があまりできていない。

川俣さん：寄合的なものは地区ごとにあったりはする。

田口さん：クッションになるような場所。家に帰る前に集まれる場。おしゃべりできる場所。公民館を借りて週1で場づくりをしているがもっと進化させたい。
10人くらい寄ってきている。

平出さん：農業をやっている側からすると雇用をしたい。だが、1日でやめてしまう人もいる。思っていたのと違う。朝が早い、重労働で難しい。マッチングできるのはいい。どちら側にもメリットになる。若い人が活躍、集まれる場づくりには子育て支援センターを令和5年までにつくろうという動きが村としてある。子育て世代が集えたりする場所自体は計画されているて、それは子供や親御さんも対象になる。そこを活用して、中高生も一緒に集えるような施設にそれがなってくればいい。

折井さん：長野県内でも地域によっては学生たちが家に帰る前に集まれる場所を作っているところがある。諏訪や塩尻など。原村はまだ積極的につくろうとしていない。活動や活動を生める場所を村として準備してあげることが重要。ただ集まるだけではなく、村の課題を若い人にも共有して課題解決のためにどうことができるのだろうと考えるきっかけをつくるべき。
高校生の時は自分自身原村の課題について考えることがなかった。社会に出て必ずしることはなるので、若いうちから意識をすることで人財が育っていく。若い人に言っても意味がないではない村ではなく、課題の共有と機会の提供をして、年を取った人だけではなく、若い方が意見を言える機会をつくらないといけない。
若い人の使えない施設を残したりするのではなく、若い人もつかえる場をつくるべき。

【会議後の感想】

坂口さん：真剣に考えているのだなと。村の課題はこういう機会でないと思えないのでいいきっかけだった。農家さんは10人くらいいるとのことで同じ世代がいることを知れてうれしかった。

田口さん：自分の意見を考えてくれてうれしかった。

平出さん：村で実際に働いていて村の課題を考えることがあるが、いろんな業種のいろんなことを考えている方のお話をきけて、仕事がんばろうとおもった。

川俣さん：知らない人としゃべるのはきらいだし興味はないのだが、それはあまりよくなくて、知ることが大事だと学んできた。苦手だが今回参加した。いやでもこうした場にすれば来てよかったと思えることが多い。自分を成長させることができる。

清水さん：これをきっかけに原村が活性化できればいい。みんなの意見をきけてよかった。

折井さん：年を取ったときに若い人がすきなようにやればといえる年寄りになりたい。仕事柄観光と農業をつなぐ取り組みをしているので、ボランティアというより仕事を通じて原村の自然や環境の良さが世の中に伝わるようにできればいい。仕事を通じて村をよくしていける。

土橋さん：おもしろかった。役場で公共交通などを担当していて、課題を解決しなければというプレッシャー、お年寄りを黙らせる方法もかんがえなければ。

●2021年度開催予定

